

第5学年音楽科学習指導案

指導者 一井 陽子

I 題材名 曲想の変化を味わおう

II 題材の指導構想

1 学習指導要領の指導内容

<p>A表現 (1) イ 歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。 ウ 呼吸及び発音の仕方を工夫して、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌うこと。</p> <p>B鑑賞 (1) ア 曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴くこと。 イ 音楽を形づくっている要素のかかり合いを感じ取り、楽曲の構造に気を付けて聴くこと。 ウ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解すること。</p> <p>[共通事項] (1) ア (ア) 音楽を形づくっている要素・・・旋律、リズム、音階や調、速度、強弱 (イ) 音楽の仕組み・・・・・・・・・・変化、反復</p>

2 題材について

教材について	題材の目標と指導の手立て	目指す子どもの姿
<p>【教材】</p> <p>A 鑑賞「威風堂々第1番」 エルガー作曲</p> <p>B 「だれかが口笛ふいた」</p> <p>C 「ハンガリー舞曲第5番」 ブラームス作曲</p> <p>【教材について】</p> <p>A この曲は、ア「躍動感あふれる部分」と題名の通りイ「堂々とした部分」が繰り返されやがて壮大な終結部をもって曲を閉じる。アとイのおもに旋律による曲想の変化が明確で、聴くことから楽譜からもその変化をとらえやすい。</p> <p>B この曲は、ア・イ・ウの三部形式の楽曲で、それぞれ、リズムや旋律（短調と長調の音階の旋律）に特徴があり、曲想の変化がとらえやすい。これらの特徴を生かして、歌い方を工夫することができる。</p> <p>C この曲は、ア～エの主な4つの旋律が組み合わせられてつくられている。このア～エの曲想の変化は、音階（短音階と長音階）や速度の変化によるもの</p>	<p>(1) 曲想やその変化を感じ取りながら、思いや意図をもって表現したり想像豊かに聴いたりする。</p> <p>(2) 旋律やリズムの特徴を感じ取って曲想を生かした表現の仕方を工夫しながら歌う。</p> <p>【指導の手立て】</p> <p>この題材で学習するすべての教材で、曲想の変化、特に旋律・リズムの変化を味わうことを学習の中心におく。旋律の学習としては、旋律の動き、短音階、長音階を扱う。</p> <p>A 「威風堂々」では</p> <p>指揮のまねをしたり、身体表現をしたり、楽譜から旋律やリズムの変化を読み取ったりする活動を通して、旋律の変化に着目できるようにする。そして、聴き取ったことや感じ取ったことを言語活動等で交流し理解し合うことで、曲想と旋律の変化を結び付け、曲想の変化を味わうことができるようにする。</p> <p>B 「だれかが口笛ふいた」</p> <p>既習曲「一輪の赤い花」を想起することで短調の音階に着目できるようにする。また、途中で曲想が変化するのはなぜかを考えることで、旋律の短音階から長音階の変化やリズムの変化等に気付くことができるようにする。そして、それらの特徴を生かしたり様子を思い浮かべたりしながら、はずんだ歌い方やなめらかな歌い方、声の色、強弱などを工夫して歌うことができるようにする。</p> <p>C 「ハンガリー舞曲第5番」</p> <p>Bの音階や調の変化の学習を活用し、長音階と短音階に焦点を当てて比較聴取を行うことで、音階の変化による曲想の変化について気付くことができるようにする。それらと、曲想、想像する情景とを結びつけることによって、想像力豊かに、曲想の変化</p>	<p>○ 曲想をつかんだり既習事項を活用して気付いたりしたことから、どんな学習ができそうか見通しをもち、主体的に学習を進めようとする。</p> <p>○ 曲想の変化をつかむための学習方法を自分で選択し（指揮のまね、身体表現、口ずさむ、楽譜を見る、手拍子等）、試しながら自分なりに聴き取ったり感じ取ったりする。</p> <p>○ 曲想の変化について自分の聴き取ったことや感じ取ったことを言語活動等を通して伝えたり、友達の聴き取りや感じ取りを理解しようとしたりする。</p> <p>○ 自分の聴き取り感じ取りと友達の聴き取り感じ取りから、楽曲に対する思いを深めたり広めたりして、楽曲への自分なりの価値づけをして聴いたり、それを生かして表情や音色、強弱の表現を工夫</p>

<p>が大きい。それらの変化が非常に大きいため子どもたちにとって興味深い教材である。</p>	<p>を楽しみながら聴くことができるようにする。</p>	<p>したりする。</p>
--	------------------------------	---------------

〈復興教育（3つの教育的価値）との関連〉

1 生命や心について【いきる】「③【価値ある自分】との関わり

特に自分と友達の聴き取ったことや感じ取ったことを交流し理解する場面において、聴き取ったことや感じ取ったことを互いに理解しようとしたり認めあったりすることで、自分の楽曲への思いや意図を価値あるものとして受け入れられていることを感じ、自己有用感・自己存在感を感じるとともに自己肯定感を高める。

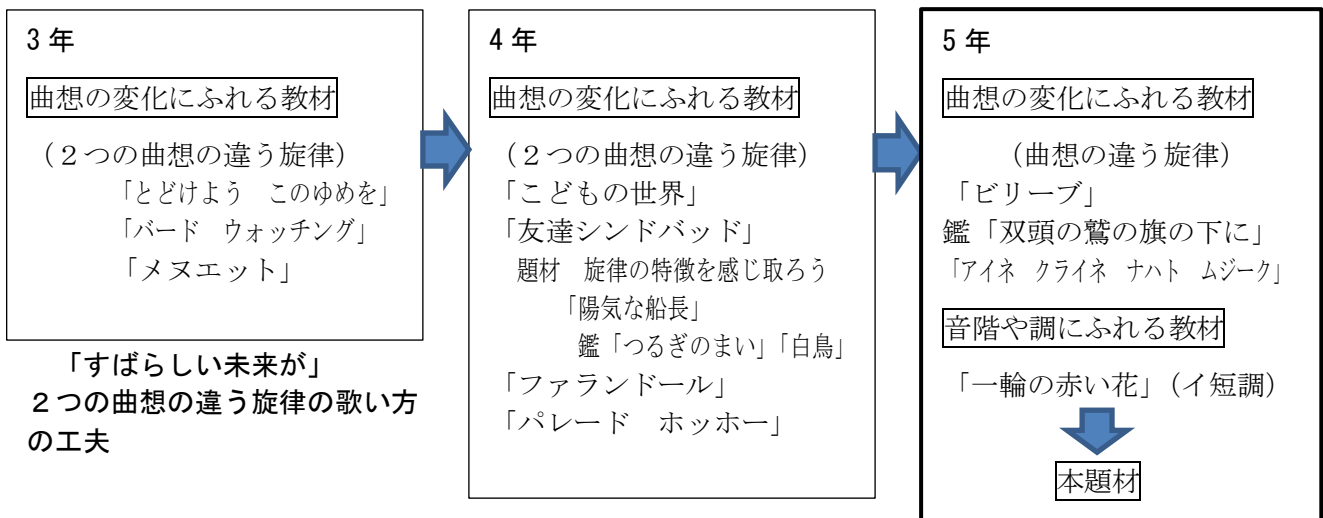
2 人や地域について【かかわる】「⑨【仲間や地域の人々とのつながり】との関わり」

互いの考えを理解し合うことで自分たちの楽曲への思いや意図を広げたり深めたりしていることを感じ、互いを高め合う大切な存在とを感じる。

3 題材の評価規準

観点	観点1 音楽への関心・意欲・態度	観点2 音楽表現の創意工夫	観点3 音楽表現の技能	観点4 鑑賞の能力
題材の評価規準	<p>① 指揮の模倣・身体表現をしたり・ロズさんだり旋律線をなぞったりしながら、曲想の変化に関心をもちながら聴こうとしている。</p> <p>② 旋律やリズム、音階の違いによる曲想の変化に関心をもち、それらの変化によって生まれる曲想の違いを生かしながら、意欲的に歌おうとしている。</p> <p>③ 音階の違いによる曲想の変化に関心をもちながら、聴こうとしている。</p>	<p>① 旋律の動きやリズム、音階の変化と、歌詞の意味をかかわらせ、強弱の表現や声の色や表情を工夫し、自分の思いや意図をもっている。</p>	<p>① リズムの変化を生かして歌ったり、旋律の動きや音階の変化、歌詞の内容をかかわらせて、曲想に合った歌い方で強弱をつけて歌ったりしている。</p>	<p>① 旋律やリズムの違いによる曲想の変化を聴き取り、旋律やリズムの特徴と曲想をかかわらせながら様子や情景を思い浮かべたことを感想に書いたり発表したりするなどして、その楽曲の特徴や演奏のよさやおもしろさ美しさなどに気付いて聴いている。</p> <p>② 旋律やリズム・音階の変化を聴き取り、聴き取ったことと曲想をかかわらせながら様子や情景を思い浮かべて紹介文に表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさやおもしろさ美しさなどに気付いて聴いている。</p>

4 学習の系統（関連と発展）



5 題材の指導と計画（7時間）

時	学 習 活 動	題材の 評価規準	聴き取ったり感じ取ったり するための手立て	指導上の留意点
第1次	ねらい 旋律・リズムの変化による曲想の変化を感じ取って聴く。			
1	1 「威風堂々」を聴いて楽しむ。 ① 「威風堂々」聴き、曲想を感じ取ったり、気付いたことを発表したりする。 ② どんなことが学習できそうかを考える。 ③ 指揮や身体表現などをして「威風堂々」を十分に聴いて楽しむ。 ④ 曲のつくりを聴き取る。	観点1 —①	○指揮のまねをしたり身体表現をしたりしながら自由に感じ取って聴くことで、曲想の変化に気付くことができるようにするとともに、この曲を十分に楽しめるようにする。 ○アとイの旋律のグループをそれぞれ決め、それぞれの旋律が演奏されたときに立って指揮をしたり身体表現をしたりすることで曲のつくりを聴き取ることができるようにする。	○声を出さずに、指揮のまねをしたり、体を自由に音楽に反応させて聴いたりしてよいことを確認する。
2 (本時)	1 「威風堂々」の曲想を想起し、学習方法を選択する。 ① 前時の曲想や気付いたことを想起する。 ② 今日の学習方法を選択する。 2 「威風堂々」の曲想の変化を聴き取り、様子や情景などの想像を膨らませて聴く。	観点4 —①	○前時の学習内容の掲示を提示したり、曲の冒頭部を聴いたりすることで、本時の学習内容やその方法を選択できるようにする。 ○聴き取ったり感じ取ったことを、指揮のまねや身体表現をしたり、口ずさんだり、擬音で伝えたり楽譜で伝えたりして、曲想の変化と旋律やリズム等のかかわりを結び付ける。	○聴くときには、自分なりの聴き取り感じ取りの方法をもって聴くことができるようにする。 ○聴き取ったことや感じ取ったことを交流する場面では、話したことを音や音楽で確かめるようにする。
第2次	ねらい 旋律・リズム・音階や調・速度の変化による曲想の変化を感じ取る。			
3	1 「だれかが口笛ふいた」を聴き、曲想をつかむ。 ① 「だれかが口笛ふいた」を聴き、曲想を感じ取ったり、気付いたことを発表したりする。 ② どんなことが学習できそうかを考える。 ③ 旋律を覚える。	観点1 —②	○既習曲「威風堂々」の曲想の変化を想起し、旋律やリズムの変化によって曲想が変化したことを想起する。 ○感じ取った曲想について交流したり、この曲を特徴づける要素にかかわる気付きについて交流したりし、学習の見通しをもつ。	○既習曲「威風堂々」の曲想の変化を想起するときには、指揮のまねをしたり身体表現をしたりしながら聴くなど、十分にこの曲の曲想の変化の面白さを味わって聴き、旋律やリズムの変化によって曲想が変化したことを想起する。
4	1 「だれかが口笛ふいた」の表現を工夫する。 ① リズムや音階の変化を手掛かりに、歌の表情や音色・強弱等の工夫をする。 ② 工夫した表現の仕方でもう練習をする。 2 どのように工夫したのかを発表する。	観点2 —② 観点3 —①	○楽譜や手拍子等で、リズムの変化を確かめる。また、「タツカのリズムがタタだったら・・・」というような比較をする。 ○短音階と長音階の比較をし、曲想の違いを明らかにする。 ○リズムや音階の働きによって醸し出される曲想を根拠に、工夫の視点(表情・音色・強弱)を明らかにして工夫する。 ○工夫したことをグループで試して表現効果を聴き取ったり感じ取ったりする。	○表現の工夫をするときには、学習方法を明らかにして聴き取ったり感じ取ったりし、それを根拠に表現を工夫することができるようにする。 ○聴き取ったことや感じ取ったことを交流する場面では、考えを共有できるように話したことを音や音楽で確かめるようにする。
5	① どのように工夫したのかを伝える。 ② 考えた工夫を歌って表現する。			

6	<p>1 「ハンガリー舞曲第5番」を聴いて楽しむ。</p> <p>① 「ハンガリー舞曲第5番」聴き、曲想を感じ取ったり、気付いたことを発表したりする。 (アイウエの曲のつくりにふれる。)</p> <p>② どんなことが学習できそうかを考える。</p> <p>③ 指揮や身体表現などをして「ハンガリー舞曲第5番」を十分に聴いて楽しむ。</p>	<p>観点1 —③</p>	<p>○既習曲「威風堂々」「だれかが口笛ふいた」の曲想の変化を想起し、旋律やリズム・音階の変化によって曲想が変化したことを想起する。</p> <p>○指揮のまねをしたり身体表現をしたりしながら自由に感じ取って聴くことで、曲想の変化や曲のつくり気付くことができるようにするとともに、この曲を十分に楽しめるようにする。</p> <p>○アイウエの曲のつくりを確かめる。</p> <p>ア-ア-イ-イ-ウ-エ-エ-ア-イ</p>	<p>○聴くとき、声は出さずしっかり音楽に耳を傾けることを約束する。</p> <p>○声を出さなければ、指揮のまねをしたり、体を自由に音楽に反応させて聴いたりしてよいことを確認する。</p> <p>○反応のよい子どもを評価しながら進める。</p>
7	<p>2 「ハンガリー舞曲第5番」の曲想の変化を聴き取り、様子や情景などの想像を膨らませて聴く。</p> <p>① ア イ ウ エの曲想の変化が、旋律やリズム音階によって変化していることに気付いて聴く。</p> <p>② 指揮をしたり身体表現をしたりしながら、速度の変化等を楽しみ、十分に味わって聴く。</p>	<p>観点4 —②</p>	<p>○前時の学習内容の掲示を提示したり、曲の冒頭部を聴いたりすることで、本時の学習内容やその方法を選択できるようにする。</p> <p>○旋律線を描いたり、楽譜を見たり口ずさんだりしながら旋律の動きやリズムの変化に気付くことができるようにする。</p> <p>○短音階と長音階の比較を行い、曲想の変化に気付くことができるようにする。</p> <p>○指揮のまねをしたり身体表現をしたりして速度の変化に気付くことができるようにする。</p>	<p>○聴くときには、自分なりの聴き取り感じ取りの方法をもって聴くことができるようにする。</p> <p>○聴き取ったことや感じ取ったことを交流する場面では、お互いの聴き取ったことや感じ取ったことを理解できるように話したことを音や音楽で確かめるようにする。</p>

Ⅲ 本時の指導構想

1 教材と子どもについて

① 教材について

本教材は、5曲ある行進曲「威風堂々」の第1番である。

主に躍動感あふれるアの部分と題名の通り堂々としたイの部分の繰り返され壮大な終結部をもって曲を閉じる。

曲のつくりは「始めの部分—ア—イ—イ—イ—イ—終わりの部分」となっている。アとイの旋律の変化が明瞭で、曲想の変化を聴いて、すぐとらえることができる。また、楽譜からも旋律やリズムの変化をとらえやすく、旋律とリズムの変化を中心に曲想の変化をとらえることができる曲である。

行進曲であることをヒントにしなが、誰が行進しているのか、どこで、どんなふうに等、様子を想像することで、聴きながら想像を膨らませ、さらに、どうしてそのように感じ取ったのかを考え様子や旋律やリズムの変化を結びつけることで、この曲をより深く味わうことができるようにしたい。

② 子どもについて

子どもたちは、これまでに、二部形式や三部形式の楽曲で「ゆったりとした部分とはずんだ感じの部分」「なめらかな感じの部分と元気で楽しい部分」などのように曲想の変化を聴き取ったり感じ取ったりしながら歌ったり演奏したり聴いたりする学習を繰り返し行っている。5年生になってからは、「ビリーブ」の学習で8分音符が多く語りかけるような部分、4分音符や伸ばす音が多く旋律の動きが山のようになっているゆったりした部分等、リズムと旋律の変化に着目して曲想の変化を感じ取り、それを歌い方や強弱の工夫に生かして歌う学習を行っている。また、「こいのぼり」の学習では、タッカのリズムが多いところと四分音符が多いところのようにリズムの変化と曲の山場の旋律の動きに着目し、それと歌詞を結び付けて想像力を膨らませながら表現に生かして歌った。

また、「双頭のわしの旗の下に」と「アイネ クライネ ナハト ムジーク」では、楽器の音色

の特徴のほかに、曲想の変化を感じ取りながら曲のつくりを理解し聴く学習を行った。
 これまで行った曲想の変化にかかわる学習方法としては、どんな旋律かを知るために旋律線を描いてみる、階名で歌ったり演奏したりして、指揮の真似や身体表現、歌詞を読んでみる、どんなリズムが多いかを考えてみるなどの学習をしてきている。

2 本時の指導（第2時）

◆子ども像

旋律やリズムが変化することで曲想が変化することを理解し、そのおもしろさやよさ、美しさを自分なりに価値づけて聴き味わう子ども

◆授業像

互いに、聴き取ったり感じ取ったりしたことを、言語活動（言葉、指揮、身体表現、手でリズムを打つ、旋律線を描くなど）で伝え合い、理解し合うことで、旋律やリズムによる曲想の変化の聴き取り感じ取りを自分なりに深めたり広げたりし、そのおもしろさやよさを味わう授業

終
末

味わう

友達の聴き取ったことや感じ取ったことから深まったり広がったりした曲のよさやおもしろさなどを味わって聴く。

手立て2②

聴き取ったこと感じ取ったことを言語活動で伝えあい理解し合う。
 言葉で伝えたことは、みんなが理解できるように、音や音楽、楽譜などで確かめ合い、音楽を特徴づける要素の働きやそれによって変わる曲想の変化のおもしろさやよさを知る。

展
開

理解し合う

例 旋律・・・旋律線、旋律の動きを身体表現で、歌って 等
 リズム・・・手でリズムをたたく、特徴的なリズムを楽譜
 で確かめる。リズムに合わせた指揮のまねをする。等

教師の支援・旋律とリズムに焦点化できる意図的指名

・リズムや旋律を比較聴取し、曲想の変化の根拠を明らかにできるようにする。

聴き取る

感じ取る

選んだ学習方法で聴き取ったり感じ取ったりする。

選ぶ

手立て2①

曲想が変化していたのはなぜか予想し、確かめるための方法をこれまでの学習方法から選択する。

指揮をする、楽譜を見る（旋律線を描く、特徴的なリズムを見る、音符の数を見る）、リズムを手でたたく、身体表現をする、演奏者のまねをする 等

卒

導
入

出合う

手立て1

本時で聴き取る「旋律」「リズム」が明確に違う既習曲とその曲想の違いを想起したり、旋律リズムの変化をクイズに出したりして、「旋律」「リズム」の要素の働きを意識できるようにする。

	ねらい・学習活動	評価規準◇ 楽曲「 」	◎研究にかかわる支援○留意事項 ☆評価方法
導入 8分	<p>1 始めの音楽 (3分)</p> <p>(1) 既習曲やピアノで演奏する曲の曲想に合わせて、手拍子をしたり指揮をしたり身体表現をしたりする。</p> <p>2 学習課題の把握 (5分)</p> <p>(1) 学習内容を把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「威風堂々」を聴きながら曲想を想起する。 <p>(2) 課題の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「威風堂々」の曲想がアとイでどうしてそのように変化して感じられたのかを考えるために必要なものや学習方法を話し合う。 <div data-bbox="240 752 916 893" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>なぜアとイの曲想が違うのかを考え、様子や情景を思い浮かべながら聴こう。</p> </div>	<p>「ビリーヴ」 「こいのぼり」 等</p> <p>「威風堂々」</p>	<p>◎ 旋律やリズムが明確に違う曲を用意し、その曲想がどうしてそのように感じられるのかを、旋律線や手拍子、言葉などで確かめられるようにする。</p> <p>◎ 旋律やリズムの変化が明確な既習曲を掲示し手掛かりにできるようにする。</p> <p>○ 「威風堂々」のアとイの曲想を想起し、曲の冒頭部分を、指揮の真似をして聴いたり口ずさんだり、前時の学習の掲示物を見たりしながら、大まかな曲想を想起することができるようにする。</p> <p>◎ 前時に感じ取ったアとイの曲想が、どうしてそのように感じ取られたのかを考えることにより、「もっと聴きたい」「楽譜が見てみたい。」など、必要なものや学習方法が考え、見通しをもって主体的に学習できるようにする。</p>

展開
30分

3 学習課題の解決

(1) 「威風堂々」のアとイの曲想とかわる「音楽を形づくっている要素の働き」を聴き取る。(18分)

- ・ 曲想の変化にかかわる要素を予想する。
- ・ 確かめるためにどのような方法で聴き取ればよいのかを考える。
- ・ 自分が選んだ方法で聴き取る。
- ・ 自分や友達が聴き取ったことを互いに伝え合い、理解し合い、旋律やリズムの働きのおもしろさやよさを知る。

〈子どもの予想例〉

旋律・リズム・楽器の音色・強弱・速度等

ア タンタララララララ・・・

ジャンジャンジャジャジャジャ・・・

パンパンパララララララ・・・



音符(8分音符や16分音符など)が多い
リズムが細かい

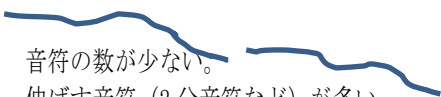
旋律の動きが上下に激しく動いている

イ ターンタタタン ターンターン

ジャンジャジャジャンジャン

ジャン

バーンバババンバーンバーン



音符の数が少ない。
伸ばす音符(2分音符など)が多い
旋律の動きがゆったり、なめらか

(2) 曲想の変化から様子や情景などを想像する。(12分)

- ・ 行進曲であることを想起し、「だれが」「どのように」「どんな場面で」行進しているのか想像して学習シートに書く。
- ・ 想像した様子や情景について交流する。

〈子どもの予想例〉

ア 兵隊が元気に行進している。

- ・ 楽しいパレードが始まった。
- ・ 楽器をもってにぎやかにパレードをしている。
- ・ 人々が楽しそうに跳びはねている。
- ・ にぎやかな王国のパレード
- ・ 戦っている

イ 王様が登場する。

- ・ 花火が打ちあがってお祝いしている。
- ・ 優雅に行進している。
- ・ フィナーレ・退場
- ・ 日の出のような

◎ 音楽を形づくっている要素が掲示してあるボードを出し、かわりのありそうだと思うものを選ぶことができるようにする。

◎ 子どもたちが曲想の変化に関係ありそうだと予想した旋律・リズムなどの要素の学習方法を掲示から想起し、聴き取る方法を選択できるようにする。

◎ 指揮・身体表現・演奏者のまね・リズムを手でたたく、旋律線をなぞるなど、自分が選んだ学習方法で聴いて、曲想の変化のわけを考えることができるようにする。

◎ 聴き取ったことを言葉を中心としながらも音や音楽で、あるいは図や線などで視覚的に伝え合い、みんなが聴き取ったことを理解できるようにする。

◎ 教師が旋律やリズムについて、「もしこのリズムだったら」「もしこんな旋律だったら」のように比較聴取できるようにすることで、要素の働きを明らかにできるようにする。

○ 旋律やリズムのほかに、速度について子どもが触れたときには、アとイの旋律をそれぞれ拍打ちしたり指揮をしたりメトロノームで速さを確かめたりして、速度に大きな変化がないことに気付かせる。

☆ 旋律やリズムの違いによる曲想の変化を聴き取っている。
(活動の様子を観察、発言)

◇観点4

—①

(指揮や身体表現などの観察)
(発言)

◇観点4

—①

(学習シート)
(発言)

◎ 「だれが」「どこで」「どのように」などの具体的な場面や様子を想像させることで、想像豊かに聴くことができるようにする。

◎ リズムや旋律を変えて比較することで曲想が変わることに気付かせ、曲想や想像する様子と旋律やリズムがかかっていることを理解することができるようにする。

☆ 曲想と聴き取ったことをかかわらせながら様子や情景を思い浮かべて感想に書いたり発表したりして、楽曲の特徴やそのよさやおもしろさ美しさに気付いて聴いている。
(活動の様子や発言・学習シート)

終末 7分	4 本時のまとめ (1) 自分なりに様子を想像したり, この曲のよさやおもしろさを聴き取ったり感じ取ったりしながら, 味わって聴く。(5分) (2) 本時の感想を話す。(2分)		○ 聴き取った旋律やリズムの要素と想像を広げた様子や情景について確認し, 1曲通して聴くことで, 聴き取ったり感じ取ったりしたことを自分なりに自由に味わって聴くことができるようにする。
----------	--	--	--